

確かに壺には「口※」もありますが、どこかのゲームじゃあるまいし壺は食べ物を食べません。NOT モンスター。正しい漢字は「加飾壺」。大食い感や吹っ飛び、たちまち飾られた美しい壺の印象にわかります。もともと美しい壺のイメージがあるところにこの種の誤変換がおこると、学芸員の笑いのツボを刺激してきて困ります。本来の加飾壺は古墳出現期に各地で盛行し、土器の表面に櫛描や押印などで装飾を施した上で全体的に磨かれた綺麗な壺を指します。もともと墳墓の祭祀で使われたものとされ壺形埴輪の祖型になると考えられます。

※土器は人体になぞらえて各部位を呼ぶのが一般的です。壺の入り口は口に見立てられ口縁部と呼びます。なお、この「口縁」も「公園」等の誤変換があり、校正の際に徒労感を感じます…。

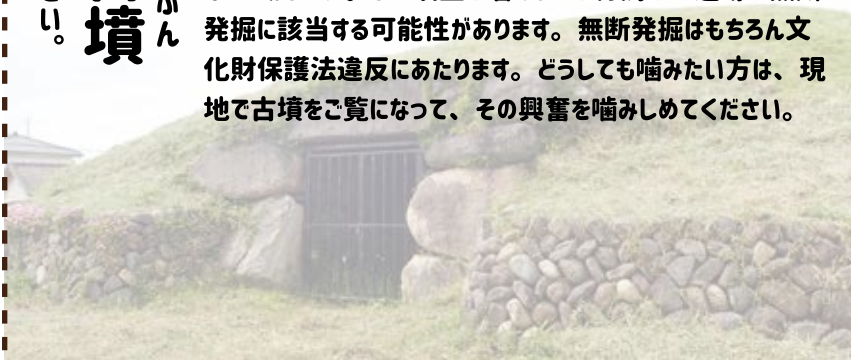
加飾壺 大塚遺跡 古墳時代

誤
過食壺
かしやくつぽ
きつと食べすぎ
でも食べちゃう。



誤
噛むな塚古墳
かづかこふん
絶対にがまないでください。

「古墳は食べられませんので絶対にがまないでください」という意味をあらわす言葉……ではありません。甲府市千塚にある「加牟那塚古墳」の誤変換です。加牟那塚古墳は現況で直径45m程度の円墳で、6世紀後半代の築造が考えられている古墳です。山梨県内では2番目に大きい石室を持っていて、山梨では珍しい埴輪が立ち並ぶ、甲府盆地北側を代表する古墳の一つとして山梨県指定史跡となっております。史跡だから、ということはないですが、食べてもきつとおしくないですし、最悪の場合そのまま埋葬されるような事態になりかねません。また墳丘を噛みしめる行為は、遺跡の無断発掘に該当する可能性があります。無断発掘はもちろん文化財保護法違反にあたります。どうしても噛みたい方は、現地で古墳をご覧になって、その興奮を噛みしめてください。



怪しい新興宗教が何かでしょうか、それとも食べ物の尊さを教えてくれる何かでしょうか。いずれにせよ字面から光背がさして光り輝く白菜を想像するとなかなかシュールです。これは「舶載鏡」の誤変換です。「舶載」とは、船にのせて運ぶことを意味します。日本列島は周囲を海で囲まれているので、つまりこの鏡はインポート。大陸から輸入された鏡なのです。日本列島で鏡が製作されるのが古墳時代前期頃くらいのこと。それ以前は輸入に頼るしかありませんでした。輸入品は希少で憧れの逸品だったのかもしれませんが、その割には惜しみなく墳墓に手向けられてしまうのですが、鏡の鏡背には中国の宗教的思想等が吉祥句などととも描かれることも多いのです。そういう意味では、当時の倭人達にとって新興宗教的にも見えたかもしれません。ちなみに、舶載されたのは何も鏡だけではなくありません。その気になれば、白菜品、白菜鉄、等々…。結論：白菜おいしい！

誤
白菜教
はくさいきょう
白菜の教えには忠実にね！



三角縁神獣車馬鏡（複製） 甲斐銚子塚古墳 古墳時代

考古用語は
難しい。
ゆかいな誤変換集

考古学で使われることばには、あまり一般的ではなく難しい用語が多くあります。そこで問題となるのがパソコンへの漢字入力です。今回は思わず「ふふつ」と吹き出してしまうようなゆかいな誤変換の一例と、本来の意味をご紹介します。

誤
臍炎文土器
すいえんもんどき

みぞおちから背中にかけて痛むんじや…。

臍炎とは胃や肝臓の近くにある膵臓の炎症を指します。よくある症状としてはみぞおちから背中にかけての断続的な痛み…そのような炎症の様態を示した土器とは果たして——？ ハイ、結論から言えば「水煙文土器」の誤変換です。水煙文土器は、中部高地の縄文時代を代表する装飾的な土器です。モンブランケーキのような把手や立ち上がるドームのような把手が特徴的で、この装飾的な把手を水煙になぞらえているのです。一方、こうした誤変換を通じてみると、細かな粘土紐等で表現され、ぐっと盛り上がる文様はどこか病的に見えなくもないかもしれません。土器は現在の鍋に該当するので、ここまでの装飾は本来不要なのです。じゃあその文様が付けられた理由はなんだったのでしょうか？ 私たちはそこに意味があると思っていますが、その意味付けについては諸説あり一長一短です。その辺考えすぎると膵臓の辺りに痛みが出てくるとかこないとか…。

水煙文土器 上野原遺跡 縄文時代

ていとう 泥塔



山梨県立考古博物館

@yamanashi_kouko

ス〇フキン?いいえ、『泥塔 (ていとう)』です。

自宅でミュージアム # エア博物館 # 疫病退散



古代～鎌倉時代にかけて、小さな塔を量産することで公私にわたるさまざまな願いを叶えようとする小塔供養がありました。そのうち、土でつくられたものを泥塔 (ていとう) と呼びます。怨霊調伏や病氣平癒等を祈ったとされています。山梨県内でも富士川町春米 (つきよね) の権現堂遺跡から平安時代の泥塔が大量に出土しています。この供養は、当時の貴族階級等で流行したもので、中央との交流の中で甲斐にもこの供養を持ち込んだものがいと推定され、後に武士と呼ばれる貴族層の地域進出や信仰を明らかにする上で重要な役割を果たすものです。

山梨県指定文化財

泥塔 権現堂遺跡出土 平安時代



SNSで疫病退散!?

新型コロナウイルスの感染症拡大防止のため、当館では2月28日～5月21日までの期間を臨時休館としました。ここでは休館中に当館のSNS等で発信した、疫病退散や厄除けを祈ったとされる遺物や考古学的な「縁起物」についてまとめてみました!

公式 SNS

@yamanashi_kouko

@yamanashi.kouko1103



山梨県立考古博物館

@yamanashi_kouko

当館のマスコットといえば土偶のいっちゃん! 一の沢遺跡から出土したからいっちゃん! シンプル!

自宅でミュージアム # エア博物館 # 土偶



DOGUU...

どくろ 土偶

土偶は縄文時代の早期から晩期まで各地で作られた土の人形です。山梨県内でも多くの土偶が見つかっており、特に笛吹市一宮町と甲州市勝沼町にまたがる釈迦堂遺跡からは、1,116 体もの土偶が出土しました。これは1つの遺跡から出土した土偶の数として、青森県三内丸山遺跡に次ぐ数の多さです。

土偶は、形や大きさはさまざまですが、完全な形で出土するものは少なく、バラバラな状態で発見されることがほとんどです。そのことから、病氣治癒・豊穡・安産・命の再生といった祈りをささげる道具として壊されたという説もあります。また、乳房がはっきり作られ、おなかが大きく妊娠している様子を表しているものが多く、出産する女性の神秘的な生命力を土偶に託していたことが想像されます。

まわりでワラワラしている土偶たち 重要文化財 酒呑場遺跡出土品

